

差別のない明るい社会を

人権について、みんなで考えてみましょう

～北埼玉地区3市における人権に関する意識調査報告書から～

1 調査目的

北埼玉地区3市の人権に関する住民の意識の現状を把握し、その結果を、今後の北埼玉地区全体での人権意識の向上、部落差別意識の解消等の人権行政の推進に必要な基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の概要

- (1) 調査地域 行田市・加須市・羽生市
- (2) 調査対象 各市内に在住する満18歳以上の男女
(階層は、18～29歳、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上)
- (3) 標本数 行田市700人 加須市1,000人 羽生市500人 計2,200人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳からの層化無作為抽出(令和6年10月1日現在)
※階層ごとの標本数及び男女の割合については人口比に基づき算出する
※外国人を含む
- (5) 調査方法 郵送及び電子による回答
- (6) 調査期間 令和6年12月10日(火)～12月27日(金)

3 調査項目

- (1) 属性(性別、年代)
- (2) 人権全般に対する意識について
- (3) 女性の人権について
- (4) こどもの人権について
- (5) 高齢者の人権について
- (6) 障がいのある人の人権について
- (7) 同和問題(部落差別)について
- (8) 外国人の人権について
- (9) インターネットによる人権侵害について
- (10) LGBTQなど性的少数者の人権について
- (11) 人権問題についての意見

4 回収結果

- (1) 調査票配布人数 2,200人
- (2) 回答者数 921人
- (3) 回答率 41.9%

5 回答者の基本属性【性別・年代別】

性別無回答 7

	男		女		その他/回答しない	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
18～29歳	36	8.6%	38	7.9%	2	16.7%
30歳代	33	7.8%	36	7.5%	0	0.0%
40歳代	47	11.2%	46	9.6%	5	41.7%
50歳代	66	15.7%	79	16.4%	4	33.3%
60歳以上	239	56.8%	281	58.4%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	0.2%	1	8.3%
計	421	100.0%	481	100.0%	12	100.0%



編集・発行 令和7年6月 北埼玉地区同和对策協議会



女性の人権

～男女が共に個性と能力を発揮できる社会を～



人々の意識や行動、習慣等の中には、いまだに、女性に対する差別や偏見、性別による固定的な役割分担などが見受けられ、職場での差別的処遇等も多く、様々な課題が残されています。

また、夫・パートナー等からの暴力（DV）、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪、売買春などの女性に対する暴力は、極めて深刻な問題となっています。さらに、女性の人権を侵害する性・暴力表現などの情報が、インターネット等を含め、メディアにおいて増加しています。

私たちは、男女それぞれの立場から真の「男女共同参画社会」の実現に向け努力していくことが必要ではないでしょうか。

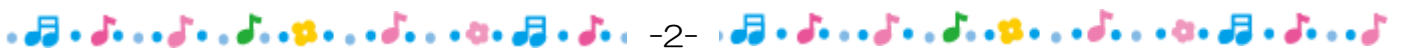
問 あなたは、女性の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

【回答】

「男女平等や性についての教育を充実する」が41.5%で最も多く、次いで「女性の人権相談、電話相談を充実する」が26.6%となっています。

	回答数	構成比
男女平等や性についての教育を充実する	382	41.5%
女性の人権相談、電話相談を充実する	245	26.6%
女性の人権を守るための啓発活動を推進する	231	25.1%
女性が被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	209	22.7%
女性の就職機会の確保や職業能力開発の機会を充実する	196	21.3%
捜査や裁判で、女性の担当を増やし、被害女性が届けやすいようにする	194	21.1%
相談機関などが暴力等を受けた被害者の意思や気持ちに配慮した対応をする	177	19.2%
議員、企業役員、行政の審議会等への女性の参画を促進する	167	18.1%
女性が暴力等の被害から避難するための施設を整備する	141	15.3%
テレビ、映画、新聞、雑誌などのメディアの倫理規定を強化する	98	10.6%
特にない	59	6.4%
その他	15	1.6%
無回答	35	3.8%
計	2,149	

(回答者数 921)





こどもの人権

～ひとりの人間だよ～



こどもたちは、虐待や差別からの保護はもちろんのこと、教育を受けること、伸び伸びと遊ぶこと、自由に自分の意見を述べることや表現することが認められています。

そんなこどもたちの人格を大切にし、それぞれの子どもが持つ「すばらしさ」を尊重していく社会を築いていきましょう。

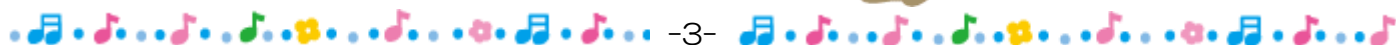
問 あなたは、こどもの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【回答】

「こどもに自分を大切にし、また、他人も大切にす思いやりを教える」が50.5%で最も高く、次いで「教師の人間性、指導力を高める」が39.8%、「家庭内の人間関係を安定させる」が29.6%となっています。

	回答数	構成比
こどもに自分を大切にし、また、他人も大切にす思いやりを教える	465	50.5%
教師の人間性、指導力を高める	367	39.8%
家庭内の人間関係を安定させる	273	29.6%
こどもの人権を守るための啓発活動を推進する	234	25.4%
こどものための人権相談、電話相談を充実する	210	22.8%
児童虐待の発見や、その解決のための体制づくりをする	188	20.4%
地域の人びとが、どのこどもにも関心を持って接する	178	19.3%
こどもの人格を尊重する教育や意識啓発に力を入れる	159	17.3%
インターネットや携帯電話の利用等にかかわる規制を強化する	159	17.3%
こどもが被害者になる犯罪の取り締まりを強化する	158	17.2%
マスメディアの情報(テレビの暴力シーン等)発信のあり方を見直す	56	6.1%
特にない	34	3.7%
その他	12	1.3%
無回答	17	1.8%
計	2,510	

(回答者数 921)





高齢者の人権

～いきいきと生きていくために～



人は誰でも年齢を重ねると、体力が衰えるなど体に不調が起こりやすくなったりします。若い人から見ると、気になるときがあるかもしれません。

しかし、「高齢者だから」というだけで、行動を制約したり、仲間はずれにしたりしていませんか？

高齢者の皆さんは、長い道のりを歩んできた人生の先輩です。この間に培った豊かな経験と知恵から学ぶことは、沢山あります。

豊かな気持ちで幸せになりたいと願うことに年齢は関係ありません。

だれもが年齢に関係なく、お互いの考え方や生活習慣を理解し、ともにいきいきと歩いていく社会を実現していきましょう。

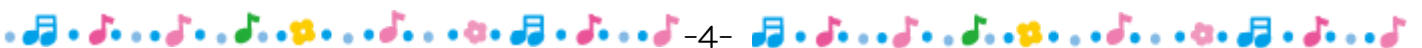
問 あなたは、高齢者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【回答】

「高齢者が自立して生活しやすい建物や道路など生活環境の整備を推進する」が39.1%で最も高く、次いで「悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る」が36.8%、「本人の意思を尊重した介護を行う」が26.3%となっています。

	回答数	構成比
高齢者が自立して生活しやすい建物や道路など生活環境の整備を推進する	360	39.1%
悪徳商法や振り込め詐欺などの犯罪から高齢者を守る	339	36.8%
本人の意思を尊重した介護を行う	242	26.3%
高齢者の就職機会を確保する	230	25.0%
高齢者とほかの世代との交流を促進する	205	22.3%
高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する	188	20.4%
認知症等により判断能力の十分でない高齢者の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	167	18.1%
高齢者のための人権相談、電話相談を充実する	162	17.6%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	138	15.0%
成年後見制度など、高齢者の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	105	11.4%
特にない	53	5.8%
その他	11	1.2%
無回答	30	3.3%
計	2,230	

(回答者数 921)





障がいのある人の人権

～ともに生きる仲間～



障がいのある人が、物理的に移動できないなど、さまざまな不便を感じていることはないでしょうか？また、自立や社会参加が阻まれていることはないでしょうか？「障がい」について、私たち一人ひとりが理解することが必要です。

障がいのある人も、一人の人間としてあらゆる社会の場に参加し、自分の役割を果たしていきたいと考えています。障がいのある人もない人も分け隔てられることなく、物理的なバリアだけでなく、こころのバリアも取り除き、お互いに人格と個性を尊重しあうことが必要です。

問 あなたは、障がいのある人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思えますか。
(〇は3つまで)

【回答】

「障がいのある人の就職機会を確保する」が39.1%で最も高く、次いで「学校教育の中で、障がい理解教育を充実する」が35.8%、「障がいのある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する」が34.4%となっています。

	回答数	構成比
障がいのある人の就職機会を確保する	360	39.1%
学校教育の中で、障害理解教育を充実する	330	35.8%
障がいのある人が安心して外出できるように、建物の設備や公共交通機関を改善する	317	34.4%
障がいのある人の人権を守るための啓発活動を推進する	274	29.8%
障がいのある人のための人権相談、電話相談を充実する	204	22.1%
障がいのある人とない人の交流を促進する	183	19.9%
知的障がいのある人等の財産を保全するため、預貯金の出し入れ代行や、預貯金通帳等の財産の保管サービスを充実する	130	14.1%
成年後見制度など、障がいのある人の権利と財産を守るための制度の利用を促進する	130	14.1%
障がいのある人がスポーツや文化活動などに参加しやすくする	112	12.2%
病院や施設についての苦情を中立的立場で解決する制度を充実する	63	6.8%
特にない	56	6.1%
その他	13	1.4%
無回答	27	2.9%
計	2,199	

(回答者数 921)



同和問題

～正しく理解することが問題解決につながります～



「部落差別なんて、もうないよ・・・」 そう考えている人も多いかもしれません。しかし、本当に部落差別はなくなったのでしょうか。

同和問題とは、ある一部の地域に住んでいることや、その出身であるということだけで、理不尽な差別を受けるという、日本固有の人権問題です。日本社会の歴史的過程の中で形づくられた身分差別により、現在でも間違った認識や偏見を原因とする、就職や結婚差別が後を絶ちません。また、「そっとしておけばいい」という考え方が一部にあります。それで良いのでしょうか。

明治4年に身分制度が廃止されて140年以上経っても、差別がなくなったとは言えません。「寝た子を起すな」の考え方では、問題解決にならないばかりか、正しい知識を得る機会を失い、誤った知識や偏見など差別的な情報だけが伝えられ、結果的に差別を助長してしまう原因にもなります。

私たち一人ひとりが同和問題を正しく理解し、他人ごとではなく、人権を尊重することの大切さを理解し、行動していくことが必要ではないでしょうか。

問 あなたが同和問題（部落差別）について、初めて知ったきっかけは、何からですか。（〇は1つ）

【回答】

「学校の授業で教わった」が31.5%で最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた」が30.6%、「はっきり覚えていない」が8.6%となっています。

	回答数	構成比		回答数	構成比
学校の授業で教わった	252	31.5%	近所の人から聞いた	26	3.2%
家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた	245	30.6%	その他	11	1.4%
はっきり覚えていない	69	8.6%	親戚の人から聞いた	9	1.1%
テレビ、ラジオ、新聞、本等で知った	66	8.2%	都道府県や市区町村の広報紙やホームページ、冊子等で知った	9	1.1%
学校の友だちから聞いた	37	4.6%	インターネットの書き込み等で知った	7	0.9%
人権に関する集会や研修会で知った	35	4.4%	無回答	4	0.5%
職場の人から聞いた	31	3.9%	計	801	100.0%

(回答者数 801)

問 あなたは、住宅の購入や生活環境を選ぶ際に、仮にその場所が同和地区であった場合、避けますか。

(〇は1つ) ※回答者921人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、120人を除く

【回答】

「気にしない」が26.6%で最も高く、次いで「わからない」が25.8%、「どちらかといえば避ける」が20.3%となっています。

	回答数	構成比
気にしない	213	26.6%
わからない	207	25.8%
どちらかといえば避ける	163	20.3%
どちらかといえば気にしない	123	15.4%
避ける	81	10.1%
無回答	14	1.7%
計	801	100.0%

(回答者数 801)



問 あなたは、結婚や就職時の際に、同和地区出身者であるかについて身元調査することをどう思いますか。(〇は1つ)

※回答者 921 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、120 人を除く



【回答】

「身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでない」が49.6%で最も高く、次いで「よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ」が27.5%、「わからない」が19.9%、「身元調査をすることは当然のことだと思う」が1.6%となっています。

	回答数	構成比
身元調査は差別につながるおそれがあるので、すべきでない	397	49.6%
よくないことだが、ある程度は仕方がないことだ	220	27.5%
わからない	159	19.9%
身元調査をすることは当然である	12	1.5%
無回答	13	1.6%
計	801	100.0%

(回答者数 801)

問 あなたは、同和問題（部落差別）を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(〇は3つまで) ※回答者 921 人から「同和問題を知らない」と回答した者及び無回答の者、120 人を除く

【回答】

「同和問題への正しい知識を身に付けるための学校教育を充実する」が54.7%で最も高く、次いで「えせ同和行為を排除する」が29.3%、「同和問題を解決するための啓発広報活動を推進する」が27.5%となっています。

	回答数	構成比
同和問題への正しい知識を身に付けるための学校教育を充実する	438	54.7%
えせ同和行為を排除する	235	29.3%
同和問題を解決するための啓発広報活動を推進する	220	27.5%
同和地区のことや差別のことなど口に出さないで、そっとしておく	182	22.7%
インターネットを利用した差別を助長するような情報の防止対策を充実する	161	20.1%
同和問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる	140	17.5%
同和問題にかかる人権相談、電話相談を充実する	98	12.2%
特にない	71	8.9%
その他	19	2.4%
無回答	31	3.9%
計	1,595	

(回答者数 801)





外国人の人権

「外国人というだけで…」

～態度を変えたり、差別をしないで～



世界中には、いろいろな人種や民族が存在し、多様な文化があります。言葉が通じないから、国籍や肌の色が違うから、宗教や生活習慣が違うから・・・そんな「違い」を受け入れられず、心に壁をつくったり、関わりを持たないようにしていませんか？

宗教上の理由で食べられない物がある、その国の民族衣装で学校や職場に通うなど、私たちと違った習慣であっても、それぞれの立場を認め合い、ともに国際社会を生きる一員として、外国人に対するさまざまな人権問題を解決しましょう。

また最近では、特定の国籍の外国人を排斥する趣旨の言動として、「ヘイトスピーチ」が社会的関心を集めています。こうした行為は、外国人への差別意識を生じさせることにつながります。

外国人も日本人も一人の人間として、お互いを理解し合い、認め合い、助け合うことが大切なのです。

問 あなたは、外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【回答】

「外国人のための各種相談体制を充実する」が31.5%で最も高く、次いで、「外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める」が26.2%、「外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する」が26.0%となっています。

	回答数	構成比
外国人のための各種相談体制を充実する	290	31.5%
外国人と地域住民との交流を図り、相互理解を深める	241	26.2%
外国人児童生徒に教育を受ける機会を確保する	239	26.0%
日常生活に必要な情報を外国語により提供する	236	25.6%
外国人の文化や伝統を尊重し、協調する態度を育むなど、国際理解教育を進める	194	21.1%
外国人の就職機会を確保する	174	18.9%
外国人の人権を守るための啓発活動を推進する	167	18.1%
特になし	158	17.2%
外国人の地方参政権を認めたり、行政への参画を推進したりする	65	7.1%
その他	27	2.9%
無回答	56	6.1%
計	1,847	

(回答者数 921)



インターネットによる人権侵害



～便利、その一方で～

インターネットは、知りたい情報を簡単に入手でき、掲示板などで知らない人たちと気軽に交流ができるなど便利なものですが、その反面、匿名性を悪用し、人を傷つけたりする情報や、他人の個人情報などを簡単に世界に向けて発信できてしまう危険性もあります。

誰だかわからないからといって、何をしても良いというものではありません。

インターネットの危険性を十分に理解し、常に人権を尊重して、ルールとモラルを守って正しい利用を心がけましょう。

問 あなたは、インターネット上の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【回答】

「違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する」が69.7%で最も高く、次いで「プロバイダ（インターネット接続業者）等に対し人権を侵害する情報の削除を求める」が54.6%、「インターネット利用者やプロバイダ（インターネット接続業者）等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発を推進する」が40.6%となっています。

	回答数	構成比
違法な情報発信者に対する監視・取り締まりを強化する	642	69.7%
プロバイダ（インターネット接続業者）等に対し人権を侵害する情報の削除を求める	503	54.6%
インターネット利用者やプロバイダ（インターネット接続業者）等に対して、個人のプライバシーや名誉に関する正しい理解を深めるための教育・啓発を推進する	374	40.6%
インターネットによる人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する	337	36.6%
表現の自由に関わる問題であり、対策には慎重な対応が必要である	116	12.6%
特にない	56	6.1%
その他	17	1.8%
無回答	61	6.6%
計	2,106	

(回答者数 921)





LGBTQ など性的少数者の人権

～みんなが「自分らしく」

生きることのできる社会を～



人はみな、生まれた時に判定された性別と自分が認識している自分自身の性別は一致している、また、恋愛対象は必ず異性であると思っていませんか。

しかし、一人ひとりに個性があるように、「性のかたち」もさまざまです。

「身体の性」と「心の性」が異なる人や、「好きになる性」が異性ではない人もいます。

また、男女どちらにも恋愛感情を持たない人、自分の性を男女どちらにも決めない人、決められない人、決めたくない人など、さまざまな人がいます。

どれが正しい、どれが間違っているというものではなく、どんなかたちも、その人らしさを表しています。

「性のかたちはいろいろある」ということを理解し、認め合い、みんなが「自分らしく」生きていける社会を築くことが大切です。

問 あなたは、性的少数者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで) ※回答者 921 人から「性的少数者に関する言葉を知らない」と回答した者及び無回答の者、258 人を除く

【回答】

「学校において性的少数者について理解を深める教育を充実する」が35.3%で最も高く、次いで「性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が29.7%、「更衣室やトイレなどに対する配慮をする」が27.9%となっています。

	回答数	構成比
学校において性的少数者について理解を深める教育を充実する	234	35.3%
性的少数者が気持ちや情報を共有できる居場所づくり	197	29.7%
更衣室やトイレなどに対する配慮をする	185	27.9%
性的少数者の人権を守るための啓発活動を推進する	177	26.7%
性的少数者のための各種相談体制を充実する	163	24.6%
性的少数者のパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と可能な限り同等に扱う	151	22.8%
性的少数者を対象とするパートナーシップ制度を充実する	127	19.2%
行政職員や教職員に対する研修を実施する	121	18.3%
マスメディアやSNSの情報発信のあり方を見直す	84	12.7%
特になし	55	8.3%
その他	12	1.8%
無回答	29	4.4%
計	1,535	

(回答者数 663)



まとめ



問 あなたは、市において、人権教育・啓発をどのように進めたらよいと思いますか。(〇は1つ)

【回答】

「もっと積極的に行ったほうがよい」が40.4%で最も高く、次いで「今までどおりでよい」が27.8%となっています。

	回答数	構成比
もっと積極的に行ったほうがよい	372	40.4%
今までどおりでよい	256	27.8%
わからない	117	12.7%
必要最小限度行えばよい	85	9.2%
その他	24	2.6%
行う必要はない	10	1.1%
無回答	57	6.2%
計	921	100.0%

(回答者数 921)

21世紀が「人権の世紀」と呼ばれて約25年が経過していますが、残念なことに、未だに、女性、子ども、高齢者、障がいのある方、同和問題、外国人の方など、多くの人権が侵害されています。

私たちは、かけがえのない一人の人間として尊重され、幸せな生活を送る権利を日本国憲法で保障されています。

人権侵害は、基本的人権にかかわる社会問題であり、一日も早く解決していくことが現代を生きる私たちの課題となっています。

この調査結果を踏まえて、一人ひとりが「人権」についてさらに理解を深め、人権尊重社会の実現を目指していくことが大切です。

〈 各市のキャラクターデザイン 〉



行田市



加須市



羽生市

